

5月14日 「遊ぶことから始まる 子どもの育ち」 嶋村仁志先生



久しぶりの対面での講演会に多くの保護者の方が参加してくださり、また土曜日ということもあり、お父さん方の姿も多く見かけられ感謝です。一般社団法人TOKYOPLAY代表理事の嶋村仁志先生を迎え、お話を聞きました。

子どもが遊べる環境をどのように整えるか、そして子どもの遊びに大人がどのように関わるかという切り口で、その子にとっての「あそび」って何？という問いから始まりました。「遊ぶことは、自分で自分を育てていくために、生き物として本能に組み込まれた【いのちのしくみ】であり、遊ぶことの最大の効果は、「もっと遊びたくなること」だと。そして、子ども自身、自分がどう育ちたいかを知っているので、それが遊びに表れる。」とお話されました。そこに、大人がどのように関わっていったら良いか...。そんな時に、「遊びのレンズをかける」と...違った見方になっていきますよと。遊びのレンズとは、子どもの立場から見たレンズのことです。他にも、「医学の立場からみたレンズや教育や生活の立場から見たレンズがあります。遊びのレンズから見ると、色々なことが見え、関わり方も変わっていくでしょう。大人はどうしても、生活のレンズで子どもの遊びを見てしがいがちですが、ちょっとでも「遊びのレンズ」で見ると案外面白い発見ができるかもしれませんね。